



出 会 い

文・大 谷 一 登 (学校教育学部 専門員)
Otani, Kazuto

人は出会いによって人生が大きく変わることがある。

長男は、小学校五年までは先生にも友だちも恵まれ元気に育つた。子育ての苦労はなかつた。転校が苦労の始まりだとは夢にも思わなかつた。

転校後、長男が「発表点が欲しいから発表するのか」と先生から言われた」と話した時、私は真意がつかめなかつた。先生にどう自分の意見を述べる長男は、意に添わない者らしかつた。

参観日に学校へ行くと、憲法九条の勉強をしていた。戦争の善悪について先生が子どもたちに尋ねた。子どもの多くは悪いと答えた。長男が「良いか悪いか分からん」と言つたので、先生が「なぜ」と問い合わせた。「経験せんと分からん」と長男が言つた。授業の終わりに、「九条はなぜできたの」と子どもたちに質問した。お気に入りの子どもが「広島に原爆が落ちて大勢の人が死んだので九条ができた」と答えた。「そうですね」で授業は終わつた。

その夜私は長男に戦争の意味を教えた。九条がなぜ設けられたのかその答えは前文に書いてある。原爆が落ちたからではなく、戦争の悲惨さを繰り返さないために設けられたものであると教えた。翌日長男は、六法全書で先生に説明したらしい。以後、長男は先生の目の敵にされる羽目になつた。

長男が通う学校は新設校で、先生も児童も寄せ集めであつた。担任は同じ学校から来た子どもに盲目的で、えこひいきが激しく、子どもたちも不満を持つていた。ある日悪口を言われた子が、怒つて担任のお気に入りの子どもを追いかけていた時、担任がいきなり

「あんたが悪い」と追いかけている子を叱つた。長男は、悪口を言つた方が悪いと担任に抗議した。それが担任の怒りをさらに増幅させた。その後担任からのいじめは陰湿になつていった。

六年の三学期には高熱を出して寝込んでしまつた。医者は「この熱は心因性のものだ」と言つた。私は長男に「学校に行かなくてよい」と言って休ませた。一週間ほどして担任がやつて来て、宿題をしなくてもよいから学校へ出てきなさいと説得を始めた。私は担任の外れの言動に啞然とした。中学へ進学した時、また平和が戻ると思つた。しかし、長男の不幸は続いた。

学校は予想以上に荒れていた。毎日のように自転車やヘルメットは壊され、授業が受けられないところがよくあつた。注意してもらつたらと話しても、先生に言つても無駄だと言う返事しか返つてこなかつた。その頃、私の財布から頻繁に金が無くなつた。ある日、財布から金を抜き取つて現場を見つけた。問い合わせると、泣きながら恐喝されていることを話した。次の日、私は担任に恐喝されているので調べて欲しいと電話をした。

驚いたことに「本校ではそんなことはありません」と言う返事。「警察に話してもよいですか」と言えば、「どうぞ」と返事が返つてきた。義兄が警察に話す前に教育長に話してみようと言つてくれた。次の日担任が「私が悪うございました」と謝りに来た。後で調査し、七万円巻き上げられていたことが判つた。

二年の夏休みに英語の宿題を見ていて、間違いが多いのに気づいた。私が書き直せと言ふと、長男は先生がもういいと言つたよと答えた。最後のページに「良くできました」と印が押してあつた。何かあれば手紙で連絡することになつてたので、「間違つてるので、間違つてます」とはどういうことですか」と手紙を出した。しかし、返事はなかつた。

三年生になつてまた新設校に転校することになった。私は内心ほつとしながら、それからが大変であった。長男は家出し十日ほど行方不明になつた。その事件の後、五月の参観日に、担任は私に高校進学は無理だと告げた。私は瞬頭がクラクラした。まさか、そこまで成績が悪いとは思つてもいなかつた。自分で長男を教えるしかない。毎日夜中まで長男と一対一の勉強が続いた。全科目一年生からの総復習である。時間がない。私は問題集をやらせては理解していないところをチェックし、教科書にしるしを付け、その箇所を徹底的に教えた。

夏休みの頃には、勉強に意欲を示すようになった。十月の参観日には、先生が模擬試験の成績を見ながら、「これなら〇〇校でも合格します。こんなに急に成績が上がるなんて例のないことです」との言葉に、子どもを学校へ行かせることが何となく馬鹿らしくなつた。高校は私学を選んだ。長男の生活はがらりと変わつた。担任は若い数学の先生であつた。魅力のある先生で長男の心を引きつけた。友人にも引張られて三年の時は、旧帝大進学クラスに入れてもらえた。大学・大学院と国立で過ごし、今は技術者として橋の設計をしている。

いじめられ、どん底まで落ちた子が、高校での素晴らしい先生や友人との出会いで、人生を切り開くことができたのである。